

活動実績 (2019年12月～2020年5月)

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
 - ・緑化活動:南岸12/21(土), 3/21(土)、北岸1/18(土), 2/15(土), 5/25(月)
 - 出前講座
 - ・JICA技術協力研修_キューバ国全国運輸マスタープラン策定プロジェクト「島嶼水環境の保全と管理・島嶼観光持続性」:12/5(木)
 - ・OGNバスツアー「金武町億首川マングローブ観察ガイド」:2/2(日)
 - 団体受入
 - ・長野日本大学高等学校:12/18(水)
 - エコツアー
 - ・ライトトラップで夜の昆虫観察:4/2(木)
 - フォーラム
 - ・「沖縄とつながる日系社会の観光未来」:2/27(木)
- 【国際協力】
- 受託事業
 - ・JICA研修員受入事業:日系社会研修「沖縄のツーリズム・ストラテジー」:1/20(月)～2/28(金)
 - ・JICA草の根技術協力事業「南東スラウェシ

活動予定 (2020年6月～11月)

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
 - ・緑化活動:南岸、北岸 毎月開催予定
 - 水辺講座
 - ・夏休み期間中に児童クラブなどを対象に開催予定
 - 国場川ごみゼロ作戦:ちゅら島環境美化全県一
- 齊清掃参加(7月頃)
- 第5回水と緑の講演会:宮古島で開催予定
 - 第6回エコツーリズムセミナー:11月開催予定
 - イベント出展予定
 - ・県民環境フェア
 - ・おきなわ国際協力・交流フェスティバル
 - ・国場川水あしび

お知らせ

会員・ボランティア募集

入会申込はホームページからお願いします。緑化活動をお手伝いして下さるボランティアを随時募集しています。お気軽に電話やメールでご連絡ください。

達人デリバリー (出前講座)

ミライへ・プロジェクト (団体受入)

お申込み・お問い合わせはこちらまで!
TEL 098-833-9493
E-mail gyomu@npo-oec.com

団体受入/出前講座2019アルバム



トヨタ・ソーシャルフェス第1回 (7/13)



城南こども園 (10/12)



ノートルダム清心高校 (10/18)

州ワカビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進:2017/3/15(水)～2020/3/31(火)



- 【国際協力】
- 受託事業
 - ・JICA研修員受入事業:課題別研修「熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(B)」:10/12(月)～11/27(金)
 - ・JICA研修員受入事業:課題別研修「熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(A)」:11/2(月)～12/18(金)



長野日大高校 (12/18)



JICAキューバ視察団 (12/5)

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ



〒902-0075
沖縄県那覇市国場370番地307号室
TEL 098-833-9493
FAX 098-833-9473
ホームページ
<http://www.npo-oec.com>
e-mail kokuba@npo-oec.com
www.facebook.com/OkiEnv

OEC ニュースレター

～ 自然と環境の保全是足元から～
特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ (OEC)

vol. 34

2020年6月発行

【1面】
●夜のエコツアーはいかが?
●水辺の癒し空間づくり

【2面】
●ワンギ★ワンギ島通信 No.7
●国場川ごみゼロ作戦2020

【3面】
●マングローブのつぶやき～その16～
●JICA日系社会研修

【4面】
●活動実績
●活動予定
●お知らせ
●団体受入2019 アルバム



パリントニアちゃん
©OEC 2020

トピック① 夜のエコツアーはいかが?

毎年6月後半から7月上旬にかけてOECが地域の方々と一緒に実施しているサガリバナ観賞会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年は中止することにした。この観賞会を楽しみにしていた方も多しことだろう。残念だが、ライトアップのイベントは来年をお楽しみに。

そこで、代わりに、少人数で初夏の夜の自然を楽しむエコツアーをいくつか紹介する。

まずは、一夜限りで散ってしまう儂い花をじっくりと観賞する「サガリバナ



ひっそりと咲くサガリバナがライトに浮かび上がる

散歩」。漂う甘い香りをたよりに暗闇で咲くサガリバナを探す散歩だ。

つづいて、闇夜の森の中で幻想的に光るホタルと出会う「ホタル観賞へGo!」。種類によって違う光り方を見分けることができるだろうか。

そして、光に集まる様々な生き物を観察する「ライトトラップを仕掛けてみよう!」。昆虫に詳しくすぎるガイドのここだけの解説スペシャル体験だ。

今回紹介したのはすべて夜のエコツアーだが、現地に詳しい専門ガイドによる安全管理は万全。詳しい内容は、当クラブHPで確認できる。

(研究員 高嶺正満)



虫を集めるライトトラップでじっくり観察

トピック② 水辺の癒し空間づくり

緊急事態により人間の世の中は一斉に自粛ムードとなったが、その間にも植物は新しい季節を迎え、県内では月桃やデイゴが開花し初夏の訪れを告げた。

OECの水辺の緑化ボランティア活動も自粛の現状だが、その間にもスタッフが継続して植物のお手入れ作業を行っている。

OECでは自然・環境の学習の場創り事業の一環でとよみ大橋西側の国道遊歩道で植生再生活動を展開中。この国道遊歩道沿いの緑地帯を「ツブキロード」と名付け、国道事務所と協定を結び、沖縄在来の水辺植物を

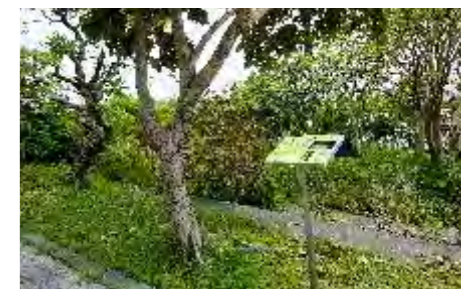
植栽している。ここは多くの市民が散歩やジョギングなどで訪れる場所でもある。植栽当時には片手サイズの小さかったツブキも、今では大きな葉を広げ、見る人の心を和ませている。

ストレスの多い毎日に疲れたら、水面を眺めながら深呼吸をしながら行こう。

海岸や川辺の水のある風景を歩くと癒し効果があると言われている。

OECの水辺の癒し空間にぜひどうぞ。

(研究員 金城明子)



解説板も設置準備中(写真はイメージ)



ボランティアの皆さんと水辺植物の植栽

ダイバー・秘境 ワンギ★ワンギ島通信 No.7 JICA草の根プロジェクト@インドネシア・ワカトビ海洋公園

OECが2017年から3年間実施した草の根プロジェクトが終了しました。1月には終了時評価でJICA沖縄の担当者やJICAインドネシアの担当者がワカトビを訪れ、ツアーを体験しました。プロジェクトの終了前には、ワンギ・ワンギ島のホテルやレストランなど数多くのフロントやレジ横に、コミュニティ観光グループ「ワカパラ」のツアーメニュー・ブックを置いてもらい、空港到着口のツアーリスト・インフォメーションにもワカパラ・ツアー情報がカラフルに展示されました。

ワカパラメンバーの一人マルワティさんの娘で、2018年夏からプロジェクトのアシスタントを務めてくれたマンティさんは、こんな感想を寄せてくれました。：「これまで観光に関わったことがなかった私は、活動の中で少しずつたくさんのお話を学び、たくさんの人と出会いました。ジャカルタで行われた展示会でプロモーションをしたことは一番の経験でした。①気づかずに日常行っていた環境に負荷のかかる行動をやめて、周りの人にもプロジェクトの学びを伝えるようになったこと、②自信をもってワカトビの魅力が伝えられるようになったこと、③英語能力が向上したこと、④だんだん観光が好きになったこと、⑤ワカパラのメンバーと親しくなったこと、⑥観光事業の決まりを学べたことなど、たくさんの変化がありました。私たちにたくさん可能性のあることを教えてくれて、ありがとうございました。お互いに助け合いながら頑張ります。」

プロジェクトに関わった皆さんの成長につながったことを実感しました。

(事務局長 立田亜由美)



左から山本現地調整員、マルワティさん、マンティさん



祝卒業! Selamat! 2月25日にワカパラ・ツアーがワカトビの「サステナブル・ツアー」に認められました!

トピック③ 国場川ごみゼロ作戦2020

ここ最近、外を歩いていると新たに目につくようになったごみがある。使い捨てマスクである。今年の3月には香港の無人島に多数の使い捨てマスクがうち上げられているとのニュースが流れ、人の生活の変化が漂着ごみにも表れていると感じた。

OECでは「国場川ごみゼロ作戦」を展開し、より多くの人に漂着ごみの問題を感じてもらい、国場川のごみを減らす行動につなげるための啓発を行っている。今年は感染症拡大防止のため、小規模で実施できる環境学習プログラムや出前講座を計画している。

OECのプログラムは、ESD(持続可能な開発のための教育)やSDGs(持続可能な開発目標)を取り入れている。教材などはOECホームページに掲載し、必要に応じて講師を派遣し、出前講座も行っていく。ごみ拾いは今年度も実施予定。お問合せはOECまで。

(研究員 金城明子)



国場川河岸でのごみ調査とごみ拾い(2019年12月)

コラム マングローブのつばやき ～その16～ マングローブテラスに定着したヒルギモドキ



億首川のヒルギモドキ壮齢木

うるま市州崎のマングローブテラスでは、ヒルギモドキが毎年5～6月に白い花を咲かせ、7～9月に無数の半胎生の種子を房状につける。

ヒルギモドキとは沖縄で見られるマングローブの一種で、生育域がヒルギに近いため「モドキ」の少し意地悪な和名がつけられ、学名を *Lumnitzera racemosa* という。世界にはオセアニアからインドに広く分布し、日本では沖縄本島が北限地。本島から

南西に300kmの宮古島ではすでに消滅したようで、分布の記録はあるが今では見つからない。

ヒルギモドキは沖縄県のレッドデータブックで希少種に分類されており、沖縄本島金武町の億首川河口近くに壮齢木2本が自生していたが、今は1本だけが生存する。1999年に設立した当クラブは、当時この2本の種子から実生苗を育て、2003年に州崎のマングローブテラスに移植した。

このマングローブテラスは、中城湾の北湾奥に位置し、旧特別自由貿易地域(中城湾新港地区)として1994年沖縄県が出島方式の埋め立て地を造成した。その時、埋め立て地の陸側岸に幅3m総延長約1,500mの人工干潟を造り、マングローブ5種が植えられた。

今、テラスには沖縄本島から絶滅

が心配されたヒルギモドキ数十本が完全に定着・生育している。そして、テラスにはオヒルギやメヒルギ、ヤエヤマヒルギなどの壮齢木と、斜面にはテリハボクやクロヨナ、サキシマハマボウなどの後背地の海岸植物が生育しており、楽しいマングローブ体験学習の場になっている。

(会長 下地邦輝)



州崎マングローブテラスでの環境学習(2019年8月)

報告① JICA日系社会研修



沖縄県庁を表敬訪問

1月20日から2月28日までの6週間、JICA日系社会研修「沖縄のツーリズム・ストラテジー」を実施した。

JICAは過去に中南米への移住事業を行っていたが、現在は中南米の日系社会のさらなる発展と移住先の国々の国づくりに貢献するために日系社会研修員受入事業を行っている。

OECでは設立以来主にJICAの課題別研修を企画運営してきたが、日系研修の運営は今回が初めてだった。

研修員はアルゼンチン1名、キューバ2名、ブラジル5名の計8名。その職種は観光業、大学講師、ブロガー、社会起業家など実に様々だった。

研修ではマーケティングやブランディングについて学んだほか、沖縄

そば打ちや民具づくり、空手など地域の伝統を活かした観光プログラムも体験した。接客マナーや民泊は、実際に自分の活動に取り入れたいとの声があった。

最後にフォーラムを開催し選抜4名が帰国後のプロポーザルを発表。2年後に全員の再会を約束し、それまで各自目標に向かって頑張ると話していた研修員たち。彼らの更なる活躍を期待すると同時に、新型コロナウイルス感染拡大の問題が深刻化する前に全日程終了できたことに胸をなでおろしている。

ご協力いただいた全ての皆様に改めて感謝申し上げたい。

(研究員 金城明子)



空手体験は大好評



日系研修の参加者 「日系人であることを誇りに思う」とコメントする若者の声印象的だった